

文化・芸術

《名画の扉》

大川美術館企画展「野見山暁治
—空にあそぶイメージたち」から

「室」

1975年、インク、グワッシュ、紙
31・3センチ×40・5センチ
(当館蔵)



野見山暁治 (1920～2023年)

「室」には、岩肌の インクとグワッシュに
ようなかたまりと、壁 よるにじみや線の重な
や階段を思わせる形 りは、「手の動きにま
が、うごめくように描 かせて」イメージが変
かれています。

野見山暁治は、身近 なものをデッサンし続 う、どこか「こわさ」
け、そこから大きなタ を宿した、はかない世
ブローへと展開してい 界です。

本展では、アトリエ 本作は、アトリエ内
に残された各時代のデ の対象なのでしょう
ッサンをたどりがな か。物の気配が並び、
入りの組み、溶け込ん ら、そのイメージの生
成に触れていたきま で、「かたちにならな
いもの」が漂います。

(小此木)